

第 124 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	他店商品券	未収金	前払金
仮払金	貸付金	手形貸付金	支払手形
買掛金	商品券	未払金	預り金
前受金	仮受金	借入金	手形借入金
資本金	引出金	売上	有価証券売却益
仕入	給料	旅費交通費	有価証券売却損

1. 商品 170,000 円を売り渡し、代金のうち 100,000 円については当店と連盟している他店の商品券で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。
2. 商品 136,000 円を仕入れ、代金のうち 80,000 円については手許にある得意先振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。
3. 商品 80,000 円の注文を受け、手付金として現金 20,000 円を受け取った。
4. 従業員が出張から戻り、旅費の残額として 34,000 円を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員には旅費の概算額 154,000 円を手渡していた。
5. 売買目的で、他社が発行する株式 1,000 株を 1 株あたり 90 円で買い入れ、代金は証券会社に対する売買手数料 1,000 円とともに小切手を振り出して支払った。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	他店商品券 商品券	100,000 70,000	売上	170,000
2	仕入	136,000	受取手形 当座預金	80,000 56,000
3	現金	20,000	前受金	20,000
4	現金 旅費交通費	34,000 120,000	仮払金	154,000
5	売買目的有価証券	91,000	当座預金	91,000

・解説

1. 商品券の授受に関する問題です。商品券は、発行時に「商品券」勘定を**負債の部に計上**し、当該商品券の返済義務が消滅したときに、反対仕訳を切ることになります。

☆商品券発行時の仕訳・・・①

(借) ———— **** / (貸) 商品券 ****

☆商品券の返済義務消滅時の仕訳・・・②

(借) 商品券 **** / (貸) ———— ****

一方、他店発行の商品券に関しては、受け取った際に「他店商品券」勘定を**資産の部に計上**し、当該商品券の受取権利が消滅したときに反対仕訳を切ることになります。

☆他店商品券受取時の仕訳・・・③

(借) 他店商品券 **** / (貸) ———— ****

☆他店商品券の受取権利消滅時の仕訳・・・④

(借) ———— **** / (貸) 他店商品券 ****

ちなみに、本問の問題文の「代金のうち 100,000 円については当店と連盟している他店の商品券で受け取り」は③に該当し、「残額は当店発行の商品券で受け取った」は②に該当します。

商品券に関する問題は、第 103 回の間 4や第 104 回の間 3、第 114 回の間 1、第 118 回の間 5、第 120 回の間 2、第 129 回の間 3でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券に関しては十分だと思います。

2. 仕入取引に関する問題です。この問題は【裏書手形に関する仕訳】【小切手振出しに関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

・裏書手形に関する仕訳

問題文に「代金のうち 80,000 円については手許にある得意先振出しの約束手形を裏書譲渡し」とありますから、当店が所有している他店振出の受取手形を仕入先に譲渡する仕訳をきることとなります。

(借) 仕入 80,000 / (貸) 受取手形 80,000

・小切手振出しに関する仕訳

残額の 56,000 円については、通常の小切手振出しによる仕入取引ですから特に問題は無いと思います。

(借) 仕入 20,000 / (貸) 買掛金 20,000

上記の 2 本の仕訳をまとめると解答になります。本問は簡単な問題ですので、完璧に出来るようにしておいてください。ちなみに、問題自体は第 120 回の間 1とほとんど同じ形式です。

3. 前受金に関する問題です。商品の売上は基本的に、【①第三者に対して財貨または役務の提供が完了】し、【②その対価として現金または現金同等物を受け取ったとき】に計上しますが、本問はまだ、①の財貨または役務の提供が行われていませんので、**売上を計上することは出来ません**。貸方に売上勘定を計上してしまった方は、もう一度テキストに戻って復習するようにしてください。

■仮受金と前受金の違いについて

仮受金・・・なんのためのお金か分からないまま（とりあえず仮に）受け取った場合に計上する勘定
前受金・・・なんのためのお金か分かっている（取引の前に）受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。目的がはっきりしていない場合は仮受金で、目的がはっきりしている場合は前受金と考えることも出来ます。本問は、問題文に「商品 80,000 円の注文を受け、手付金として・・・」とありますので、前受金勘定を使って処理することになります。

なお、本問では受け取った側の仕訳が聞かれていますが、内金を支払った側の仕訳も押さえておくといいと思います。受け取った側と同様に仕入勘定を使って処理してはいけないことに留意してください。

☆参考・内金を支払った側の仕訳

(借) 前払金 20,000 / (貸) 現金 20,000

本問のように、前受金の処理をズバリ聞いてくるような問題は第 108 回の間 2 でも出題されていますが、どちらも簡単なボーナス問題ですので、確実に 4 点を取りたいところです。なお、第 108 回では内金を受け取って、第 124 回では手付金を受け取っていますが、受験簿記では両者を区別する必要はありませんので、内金・手付金を受け取った時は迷わずに前受金を計上するようにしてください。

4. 仮払金に関する問題です。本問はまず、問題文なお書きの「出張にあたって、従業員には旅費の概算額 154,000 円を手渡していた」という部分の仕訳を起こしてみるといいと思います。

(借) 仮払金 154,000 / (貸) 現金など 154,000

上記のような仕訳が切られたことを前提にして、仮払金を適当な勘定科目に振り替えることとなりますので、貸方に仮払金勘定が、借方に旅費交通費勘定が入ることが簡単に分かります。

■仮に旅費が 180,000 円だった場合は・・・？

→足りなかった 26,000 円の現金支出を認識することになります。

(借) 旅費交通費 180,000 / (貸) 仮払金 154,000
(貸) 現金 26,000

仮払金に精算に関する問題は、「仮払いした際の仕訳を考えてみる」ことがポイントになります。慣れるまでは実際に下書き用紙に書き出してみるといいと思いますが、慣れてきたらなるべく頭の中で仕訳をイメージして解答できるようにしておいてください。

なお、仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 119 回の問 4、第 129 回の問 4で出題されています。

第 100 回・第 110 回・第 115 回が「仮払金の計上時の仕訳」を問う問題になっているのに対して、第 119 回・第 124 回・第 129 回は「仮払金の精算時の仕訳」を問う問題になっています。

仮払金処理の一連の流れを理解したい場合は、【計上時の仕訳問題→精算時の仕訳問題】の順番で解くようにすると、流れが分かりやすくて良いと思います。

5. 有価証券の購入に関する問題です。短期的に売買する目的で有価証券を購入した場合は、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上することになります。

有価証券の取得原価＝購入代価＋付随費用

ここで注意していただきたいのは、**期末評価時や売却時の単価計算も付随費用が考慮された数字になる**ということです。本問では、有価証券自体の単価は 90 円ですが、付随費用を加味した単価は【91,000 円÷1,000 株＝91 円】ということになります。

なお、有価証券の購入に関する問題は、第 103 回の問 5や第 108 回の問 4、第 119 回の問 2、第 121 回の問 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。